

予めすべてが決められていると信じる世界観が利他的行動に及ぼす影響

井上直也^a, 岡井駿^a, 宮崎涼華^a, 村永康平^a, 周夢媛^b

要約

本稿ではアンケート調査を通じて予めすべてが決められていると信じる世界観が利他的行動に及ぼす影響についての研究を行った。予めすべてが決められていると信じる世界観が強いほど良い行いをする傾向が強いという研究仮説を立てた。回帰分析の結果、研究仮説が成立するかどうかは、天国に対する価値観に依存することを示す有意な結果を得ることができた。

キーワード：世界観, 天国, 利他的行動,

はじめに

まず全体として我々は予めすべてが決められていると信じる世界観は利他的行動を起こす傾向がとても強いのではないかと考えたが、その中の一部として「天国にふさわしい人間になるように良い行いをする」と「どうせ天国に行けるのであるから良い行いをする」というものを織り交ぜた。これは我々の「天国に対する価値観の違いによる利他的行動の差が現れるのではないか」という仮説に依存する。例えば個々の信仰する「なにものか」によって予めすべてが決められているのであれば、それに見合う行動を自らするのではないかというような仮説が立てられる一方、すべてが「なにものか」によって元から決められているのだから特にそれに見合うふさわしい行動はせず自らの欲求を満たすためだけに行動をするというケースを想定したからである。

ここではまず研究に際して「世界観」「天国」「利他的行動」の定義を説明する。まず「世界観」は大垣・田中（2014）の著書「行動経済学入門」から抜粋をして「ひとつの人々の集団が生活を秩序づけるために用いている、現実の性質に関する認識、感情、判断に関する、基礎的な仮定と枠組み」と定義する。次に「天国」とは天上の理想的な世界とする。そして「利他的行動」とは自己の損失を顧みずに他者の利益を図るような行動のこととする。このように、今回の研究では、このように一般的な世界観と経済行動との単純な行動の相関性に留まることなく人のもつ世界観がその人の生活全般の行動事項にかなり影響を及ぼしているのではないかというものを探っていくものである。

^a 慶應義塾大学経済学部 3 年生

^b 慶應義塾大学大学院経済研究科。アンケート質問作成とデータ収集が終わってからデータ分析の一部を担当した。

本稿では1つの経済行動利他的行動に関して上記の世界観やダミー変数となる質問を織り交ぜてアンケートを実施し世界観がどのような有意性を示すのかを調べる。そして研究結果を踏まえたうえで我々が今後どのように人間関係を円滑に進めていけるのか対策を考えていきたい。

研究方法

SNS上で(Twitter,LINE)で我々が作成したアンケートを拡散した。その結果として200名の有効回答を得た。アンケート項目の質問をそれぞれ点数化し回帰分析を行った。Twitterは個々のユーザーが「ツイート」と呼称される短文を投稿し、閲覧できるコミュニケーション・サービスである。リツイートと呼ばれるユーザーの投稿を再投稿することを利用した。

LINEはインストールされている携帯電話同士で通話やチャットが行えるアプリケーションでメッセージに反応したかどうか送信者側が把握することができる。そのため状況に応じてアンケートのリマインドが効率的に可能である。

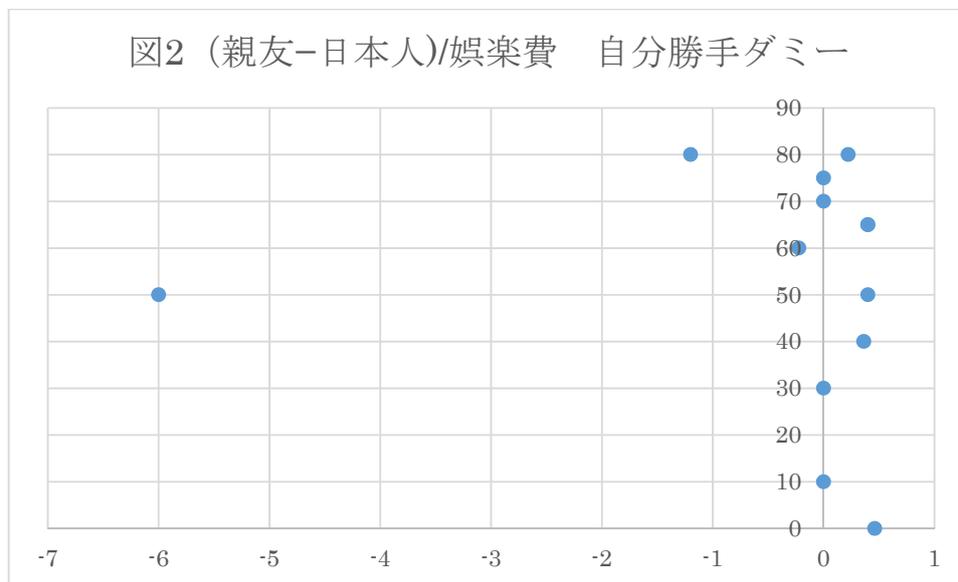
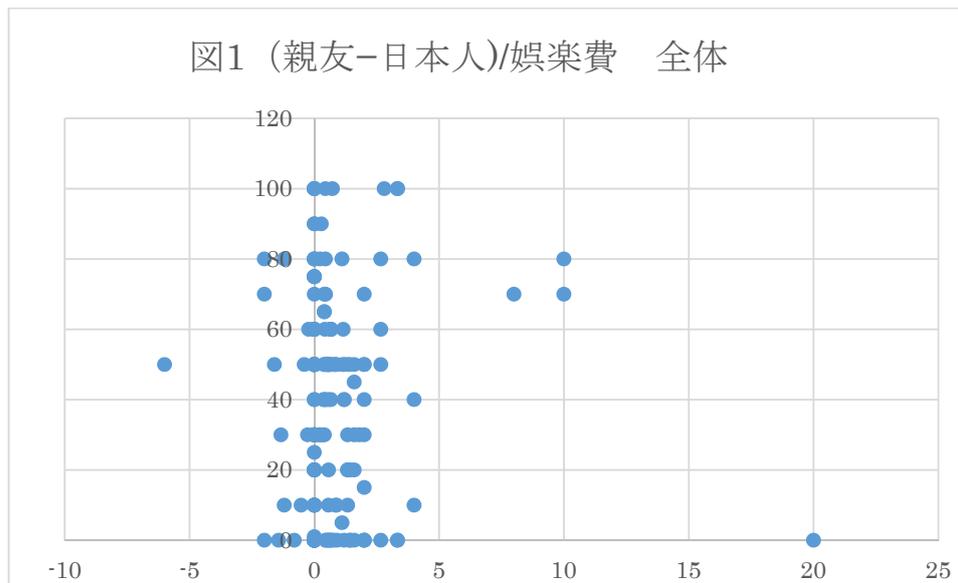
分析方法はアンケート結果をExcelを用いて集計し、単回帰分析・重回帰分析またstataを使った分析を用いた。

結果

以下では「予めすべてが決められていると信じる」強さの度合をアンケート質問で測った変数を世界観変数と呼ぶ。親友に渡す額と日本人に渡す額の差を娯楽費で割った値を被説明変数とし、世界観変数と、世界観変数と「天国にふさわしい人間になるように良い行いをする」というダミー変数の交差項、世界観と「どうせ天国に行けるのだから自分のしたいことをたくさんする」というダミー変数の交差項を説明変数として多重回帰分析を行ったところ、下記のように5%水準で有意な結果が得られた。

	係数	p 値
世界観と「天国にふさわしい人間になるように良い行いをする」	0.008279	0.041*
「どうせ天国に行けるのだから自分のしたいことをたくさんする」と利他的行動（親友と日本人との差）	-0.0222466	0.05*

下の図は,図1が親友に渡す額と日本人に渡す額の差を娯楽費で割ったものであり,図2が親友に渡す額と日本に渡す額の差を娯楽費で割ったもののうちダミー変数の質問で「どうせ天国に行けるのだから自分のしたい事をたくさんする」を選んだ人だけを抽出したものである.前者は有意な結果が得られなかったが,後者では有意な結果が得られた.



以上の結果を見ると、「予め全てが決められていると信じる」世界観とダミー変数の選択肢の一つである「天国にふさわしい人間になるように良い行いをする」という選択肢を選ぶ行動に影響を与えているという有意な結果が得られた。つまり、「予め全てが決められていると信じる」世界観が強いほど、「天国にふさわしい人間になるように良い行いをする」というダミー変数の選択肢を選ぶ事がわかった。

また、「どうせ天国に行けるのだから自分のしたい事をたくさんする」ダミー変数と親友に渡す金額と日本人に渡す金額との差をとった場合における利他的行動の度合いに負の影響を与えているという有意な結果が得られた。つまり、「どうせ天国に行けるのだから自分のしたい事をたくさんする」を選んだ人、特に世界観が強い人ほど心理的に少し遠い人に対して利他的行動をとることがわかった。

考察

まず、「予め全てが決められていると信じる」世界観が利他的行動に影響を与える有意な結果が得られなかった事について考える。仮説としては「予め全てが決められていると信じる」のであれば、例えば自分の目の前で困っている人を見れば、その人が自分の目の前に現れたことは予め決められており、それには理由があると考え、その理由が自分が手を貸すことだ、自分は目の前の人を助けなければならないと考えられたからだ。しかし、もう一方では、予め全てが決められていると信じる」としても、困っている人を目撃したら、その人が困ることになるのは予め決められていた事であって、その事実は変えられないと考えるため、あえて放置する行動を取る事も考えられる。つまり、前者がダミー変数の「天国にふさわしい人間になるように良い行いをする」であり、後者が「どうせ天国に行けるのだから自分のしたい事をたくさんする」である。したがって、「予め全てが決められていると信じる」世界観が強いほど、利他的行動において、両極端になると仮定した。しかし、研究仮説と整合的で有意な結果が得られなかった。単純にこの世界観と利他的行動には関係性が見られなかったからであろう。そして、人が利他的行動をとるかどうかは他の規制が存在すると考えられる。例えば、今回のアンケートの2~4番の質問で同じ金額を渡すと答えた者がいたが、それは例えば「平等を重視する」世界観などが働いていたと考えられる。このように、利他的行動を他にも規制する要因が多く存在すると考えられ、「予め全てが決められていると信じる」世界観が利他的行動に影響を与えるかどうかは、今回の結果では見られなかった。

次に、「予め全てが決められていると信じる」世界観が、ダミー変数の選択肢の一つである「天国にふさわしい人間になるように良い行いをする」という選択肢を選ぶ行動に影響を与えているという有意な結果が得られたことについて考える。この結果からすると、「予め全てが決められていると信じる」世界観と「天国」を信じる事には共通点がある事が考えられる。まず、「予め全てが決められていると信じる」世界観は存在が明らかではない「超越した存在」によって「決められて

いる」と考えることができる。また、「天国」も同じように存在が明らかではなく、概念として「予め全てが定められている」事と共通している。よって、「予め全てが決められていると信じる」世界観が強い人ほど「「天国にふさわしい人間になるように良い行いをする」というダミー変数を選ぶ者が多かったと考えられる。しかし、この世界観とダミー変数は利他的行動までは影響を与えていないことが分かった。そして、世界観を強く持ち、「天国」を強く信じる者ほど「天国」は「良い行いをしないと行けないと行けない場所」という潜在意識があるため、質問で天使に天国に行けると言われても、「天国」に行くために良い行いをする事が考えられる。

最後に、「どうせ天国に行けるのだから自分のしたい事をたくさんする」を選んだ人、特に世界観が強い者が親友に渡す金額よりも日本人に渡す金額のほうが多くなることについて考える。「どうせ天国に行けるのだから自分のしたい事をたくさんする」というダミー変数を選択した者は「天国にいける」と言う事実に対して、「これまでの生活を保つ」を選んだ者とは違って、行動が変化している。つまり、行動を変えたということは「天国」に行けることを強く信じていることが見受けられる。よって、「良い行いをしないと行けないと行けない場所」という潜在意識が働いており、自分の身内である親友よりも、他人である「日本人」に対してより利他的行動をとると考えられる。